

---

# 工学部・知識工学部 共通分野

---

教 養 科 目

体 育 科 目

外 国 語 科 目

## 2019年度 共通分野 教育課程表

学則第18条別表1-1① 工学部・知識工学部 共通分野(教養科目・体育科目・外国語科目) 教育課程表

○印必修科目

区 科 系 目 分 群 統	授 業 科 目	必 選 の 別	単 位 数	週 時 間 数								担 当 者  (2019年度現在)	科 目 ナン バ リン グ
				1年		2年		3年		4年			
				前	後	前	後	前	後	前	後		
人文学系	哲学(1)	G	2	2								大野晃徳	00-111
	哲学(2)	G	2		2							大野晃徳	00-112
	倫理学(1)		2	2								山本史華	00-113
	倫理学(2)		2		2							山本史華	00-114
	倫理学		2		2							石田知子	00-115
	文化人類学		2		2							鈴木洋平	00-116
	視覚芸術史(1)	G	2	2								岡山理香	00-117
	視覚芸術史(2)	G	2		2							岡山理香	00-118
	デザイン概論(1)	G	2			2						岡山理香	00-211
	デザイン概論(2)	G	2				2					岡山理香	00-212
	日本文学	G	2			2						木内英実	00-213
	日本史(1)	G	2	2								丸島和洋	00-11F
	日本史(2)	G	2		2							丸島和洋	00-11G
	西洋史(1)	G	2	2								新保良明	00-11A
	西洋史(2)	G	2		2							新保良明	00-11B
	民俗学	G	2		2							鈴木洋平	00-11C
	宗教学	G	2	2								長島大輔	00-11E
	社会科学系	社会学(1)		2	2								塚田修一
社会学(2)			2		2							塚田修一	00-122
社会学入門			2	2								塚田修一	00-123
経済学(1)			2	2								伊藤潤平	00-124
経済学(2)			2		2							伊藤潤平	00-125
日本経済論		G	2				2					大守隆	00-321
政治学(1)			2	2								坂井亮太	00-126
政治学(2)			2		2							坂井亮太	00-127
日本の政治		G	2			2						丸島和洋、茨木瞬	00-221
国際関係論(1)		G	2	2								宮下大夢	00-128
国際関係論(2)		G	2		2							宮下大夢	00-129
日本国憲法			2	2	(2)							大沼友紀恵	00-12A
法学			2	2								大沼友紀恵	00-12B
民法			2		2							大沼友紀恵	00-12C
西洋経済史		G	2	(2)	2							新保良明	00-12E
人文地理学			2	2								中村昭史	00-12F
現代中国論		G	2		2							竹茂教	00-12G
人間科学系		教育学(1)		2	2								角田多加雄
	教育学(2)		2		2							角田多加雄	00-132
	スポーツ・健康論		2	2	(2)							渡辺、椿原、久保、岩嶋	00-133
	心理学(1)		2	2								千田茂博	00-136
	心理学(2)		2		2							千田茂博	00-137
	心理学概論		2	2								森山徹	00-138
	心理学入門		2	2								川村久美子	00-139
	社会とジェンダー		2		2							西山千恵子	00-13A
	国際化と異文化理解	G	2					2				山中美子	00-331
	日本文化の伝承	G	2		2							丸島和洋、榎本宗白	00-13B
自然・情報科学系	論理学(1)		2	2								小草泰	00-141
	論理学(2)		2		2							小草泰	00-142
その他	PBLによる産学協働演習		2	2								岩尾徹、櫻井俊彰	00-151
	ボランティア(1)		1									専門学科教員	00-951
	ボランティア(2)		1									専門学科教員	00-952
	教養ゼミナール(1)		2	2	(2)	教養ゼミナールと教養特別講義は、各4単位まで「教養科目」区分の卒業要件として算入できる。それぞれ4単位を超える同科目の単位は、卒業要件に算入できない。						00-953	
	教養ゼミナール(2)		2	2	(2)	科目詳細は、シラバスを参照すること。						00-954	
	教養特別講義(1)		2	2	(2)							00-955	
	教養特別講義(2)		2	2	(2)							00-956	

教育課程表

○印必修科目

区分	科目系統	授業科目	必修の別	単位数	週時間数								担当者 (2019年度現在)	科目ナンバリング
					1年		2年		3年		4年			
					前	後	前	後	前	後	前	後		
体育科目		基礎体育(1)	○	1	2								体育教室	01-111
		基礎体育(2)	○	1		2							体育教室	01-112
		応用体育(1) *集中授業あり		1			*2	* (2)					体育教室	01-211
		応用体育(2) *集中授業あり		1			*2	* (2)					体育教室	01-212
外国語科目	英語科目 (スキル)	Communication Skills(1)	○	1	2								マディーン他	02-111
		Communication Skills(2)	○	1		2							畑和樹他	02-113
		Reading and Writing(1)	○	1	2								三幣友行他	02-115
		Reading and Writing(2)	○	1		2							日高正司他	02-117
		Basic English Training		2			2	(2)					寺澤由紀子	02-211
		Grammar(1)		2			2	(2)					三幣友行他	02-213
		Grammar(2)		2			2	(2)					稲垣亜希子	02-215
		Test Taking Skills(1)		2			2	(2)					伊藤衣里他	02-217
		Test Taking Skills(2)		2			2	(2)					細田雅也	02-219
		Test Taking Skills(3)		2			2	(2)					小谷延良	02-311
		Critical Reading(1)		2			2	(2)					稲垣亜希子, 薦田嘉人	02-21B
		Critical Reading(2)		2			2	(2)					伊藤千里	02-21D
		Critical Reading(3)		2			2	(2)					細田雅也	02-313
		Critical Listening(1)		2			2	(2)					三幣友行	02-21F
		Critical Listening(2)		2			2	(2)					秋山義典他	02-21H
		Critical Listening(3)		2			2	(2)					寺澤由紀子	02-315
		Communication Strategies(1)		2			2	(2)					サットン	02-21J
		Communication Strategies(2)		2			2	(2)					ゴステヴァ	02-21L
		Communication Strategies(3)		2			2	(2)					マディーン	02-317
		Academic English(1)		2			2	(2)					ブラウン	02-21N
	Academic English(2)		2			2	(2)					日高正司他	02-21P	
	Academic English(3)		2			2	(2)					畑和樹	02-319	
	英語科目 (教養)	Literature in English(1)		2			2	(2)					水戸俊介	02-221
		Literature in English(2)		2			2	(2)					秋山義典	02-223
		Global Culture(1)		2			2	(2)					Y C 開講	02-225
		Global Culture(2)		2			2	(2)					寺澤由紀子	02-227
		Language Sciences(1)		2			2	(2)					三幣友行	02-229
		Language Sciences(2)		2			2	(2)					畑和樹	02-22B
		Global Society(1)		2			2	(2)					Y C 開講	02-22D
		Global Society(2)		2			2	(2)					日高正司	02-22F
	共通	海外・特別選抜セミナー		2	2	(2)								02-931
		外国語特別講義		2			2	(2)						02-932
	英語以外の外国語科目	ドイツ語(1)		2			2	(2)					権平, 清水, 中村他	02-241
		ドイツ語(2)		2			2	(2)					権平, 清水, 中村他	02-243
		フランス語(1)		2			2	(2)					富塚真理子	02-245
		フランス語(2)		2			2	(2)					富塚真理子	02-247
		スペイン語(1)		2			2	(2)					ビクトル・バラソ	02-249
		スペイン語(2)		2			2	(2)					ビクトル・バラソ	02-24B
		イタリア語(1)		2			2	(2)					未定	02-24D
イタリア語(2)			2			2	(2)					未定	02-24F	
中国語(1)			2			2	(2)					黄愛華	02-24H	
中国語(2)			2			2	(2)					黄愛華	02-24J	
アラビア語(1)			2			2	(2)					モハンマド・ファトヒー	02-24L	
アラビア語(2)			2			2	(2)					モハンマド・ファトヒー	02-24N	
韓国語(1)			2			2	(2)					白雪花	02-24P	
韓国語(2)			2			2	(2)					白雪花	02-24R	
日本語表現		2			2	(2)					嘉村雅江	02-24T		

卒業要件	教養科目	10 単位	
	体育科目	2 単位	右記を含むこと ○必修科目 2 単位
	外国語科目	8 単位	右記を含むこと ○必修科目 4 単位

G : 国際化 (グローバル化) に対応した教養科目

「教養科目」において、「海外の歴史と文化」「我が国の歴史と文化」に関連し、国際化 (グローバル化) に対応した教養となる科目に、「G」を付している。

## 教養科目

### 1. 本学の教養科目

環境、食、家族、老いなど、現代社会には特定の専門領域だけでは解決できない複雑な課題が山積している。しかも、賛成か反対か二択を迫られることが多く、そうした場面での判断には、何より客観的、合理的に自分の頭で考える洞察力、比較力、批判力、評価力が必要となる。このような状況を踏まえれば、「教養」とは広い視野に立ち、事物を多様な視点から見ることができる複合的能力であると一先ず定義できる。その結果、以下の教養科目受講を求めたい。技術者は製品作りの過程で、営業、広報、経理など多くの部門と接触せねばならない。もちろん、技術者はこれらの部門に関し素人である。そこで、異なる専門家同士をつなぐ回路が必要となる。それが教養科目である。工学系の学生は経済学、倫理学などの履修により費用対効果、企業倫理、法令遵守の重要性などを知っておく必要がある。従って、「ものづくり」のみで終わることなく、複合的に物事を見る姿勢が望まれるわけである。卒業後を見据えた上で、文系型教養科目の履修が持つ重みを理解しよう。さらに、グローバル化が求められる中、「国際化に対応した教養科目」の区分にも目を向けてもらいたい。

### 2. 本学における教養科目と専門科目の関係性

教養科目の到達目標は洞察、比較、批判、評価など多岐にわたる能力の習得にある。社会に出れば、誰もが専門領域以外の多様な問題に直面せざるをえず、そのときに必要とされるのが事物を多面的に捉える視点である。つまり、これまでに習得した知識・技能などを総合的に活用して自ら判断を下し、直面する課題を自律的に解決できるのかどうか、が問われる。さらに、異なる専門分野の者同士が一つのプロジェクトを協力しながら遂行していく場合、互いの専門の結節点を探らねばならない。この接着剤・潤滑油的役割は総合的判断力を培うことを志向する教養科目によってかなえられる。以上から、教養科目の受講とは、学生が柔軟な思考力を培って主体性を鍛え、国際性を身につけ、創造性を伸ばすことを保証するためにあると言えよう。

このように、本学の教養科目は次のように位置づけられる。(a)教養科目は異なる学部・学科間の専門分野を関連付け、結びつけるツールであると同時に、新しい視野を学生に提供する。(b)専門外の視点を与えることで、社会人としての素養を学生に身につけさせる。(c)人生の幅広い指針を学生各自に考えさせる。

従って、教養科目は専門基礎科目と専門科目から成る有機体を包み込むと共に、そのどの分野とも関連せざるをえない広域科目なのである。

### 3. 教養科目の全学共通化

本学では、3キャンパス開講の、ほぼすべての教養科目を履修することができる。所属キャンパスにとらわれることなく、自分の興味関心に基づき、主体的に科目を選んでもらいたい。キャンパス間の交流が進むことにも期待したい。

#### 履修上の注意事項

- (1) 教養科目はすべて選択科目である。大半の科目は1年次から履修できる。しかし、2年次以上など受講上の条件のある科目もあるので授業内容と条件を吟味の上、各学年で2～4科目程度の科目を選択して履修する。3年次終了時までには「卒業研究(1)着手条件」(工学部) / 「4年次進級条件」(知識工学部)を満たすように教養科目を修得する必要がある。
- (2) 教養ゼミナールは、名称・内容ともに担当教員の積極的な提案によって開講されている。受講者は少人数を原則とし、学科・学年を問わず履修できるので、学生同士や教員との交流も深めることができ、学生にとって極めて有意義な経験となるであろう。
- (3) 「教養ゼミナール」と「教養特別講義」は、それぞれ4単位まで「教養科目」区分の卒業要件として算入できる。なお、それぞれ4単位を超える同科目の単位は、卒業要件に算入できない修得単位(卒業要件非加算の特別履修)とする。
- (4) 教育職員免許状を取得しようとする者は、教養科目の「日本国憲法」を必ず履修しなければならない。
- (5) 「G」を記した「国際化(グローバル化)に対応した教養科目」とは、グローバル化が問われる現代社会の中で履修を推奨される科目のことである。つまり、オーストラリアなどへの留学の有無にかかわらず、教養人として海外の「事情・歴史・文化」は知っておくべきであり、その一方で、今後、我が国の「事情・歴史・文化」を外国人に発信することが求められる。国内または国外の共通項を取り上げる科目として、履修選択の際の参考にしてほしい。

## 体育科目

近代文明の急速な発展は、あらゆる面で人間の生活を便利にしている一方で、人間を動かない方向に押しやってもいる。例えば、労働形態の変化、モータリゼーション、家庭生活の電化等により、我々は日常生活で体を動かす機会、特に「歩行」という人間が生きていくうえで必要不可欠な基本運動を少しずつ失ってきている。このことは単なる身体機能の低下にとどまらず各々の心身にも多くの歪みをもたらし、精神・神経障害、運動機能障害、循環器障害、退行性変化、更には代謝異常へと結びつく要因となっている。これらの多くは運動不足症候群とも呼ばれ、憂うべき現象をもたらしている。このような現状を踏まえ、本学での体育は、身体に関する基礎知識や身体運動の習慣を身につけることを目指している。

大学時代は自己のライフスタイルを確立する大切な時期であり、この確立の根本には健康な体が前提視されるであろう。「スポーツ・健康論（教養科目）」や「教養ゼミナール（教養科目）」を通して運動と健康や体力との関わりを認識し理解するとともに、実技（スポーツ）を通してダイナミックな喜びを実感（共感）し、人間がぶつかり合って関係を創り出す社会的能力を身につけてほしい。更には、ここでの経験が生涯にわたって健康的な生活を自律的に、しかも積極的に送っていく礎となればと願っている。

### 履修上の注意事項

- (1) 「基礎体育(1)、(2)」は、1年次における必修科目である。

#### 基礎体育(1)

1年次前期に開講され、バレーボール、ソフトボール、テニス、卓球の4種目があり、希望する種目を選び半期履修する。

#### 基礎体育(2)

1年次後期に開講され、バスケットボール、サッカー、テニス、卓球の4種目があり、希望する種目を選び半期履修する。

※履修に際しては、指定の体育館シューズを必ず購入しなければならない。

- (2) 「応用体育」は、2年次以降いずれの学年においても履修することができる全学科共通の選択科目である。授業形態としては半期ごとに行われる通常授業と、休業中に宿泊を伴って行われる集中授業がある。

#### 応用体育 通常授業

通常授業は、バドミントン、テニス、球技等が開講されており、種目等の詳細については、学期始めに掲示並びに授業の際にガイダンスがある。履修制限並びに履修申請の都合上、1回目のガイダンスに必ず出席すること。

#### 応用体育 集中授業

集中授業は、夏はゴルフ、冬はスキー・スノーボードを開講している。

ゴルフは、学内での授業を3回（8月はじめ並びに9月はじめ）と群馬県にあるサンコー72カントリークラブにて2泊3日（9月上旬）の宿泊並びラウンドを行う授業となっている。経験者はもちろん、初心者でもショートコースから実際のコースまで体験できる授業となっている。

スキー・スノーボードは、岩手県にある安比高原スキー場にて3泊4日（2月上旬）の授業となっている。初心者から上級者まで対応しており、上達することは間違いない。希望者はSAJ（全日本スキー連盟）の級検定もできる。

※集中授業の履修に関しては、詳細を掲示するとともに申込用紙を14号館2階の体育事務・管理室前に置いておくので記入し、提出をすること。

なお、「応用体育」は、通常授業、集中授業関係なく履修順に「応用体育(1)」「応用体育(2)」として認定される。

## 外国語科目

外国語共通教育センターでは、以下のディプロマポリシーを掲げ、新カリキュラム「都市大スタンダード2.0」に基づいた外国語教育を行っている。

- 1) 外国語を駆使して国際社会で積極的に活動できる人材を育成する。
- 2) 異文化を理解し尊重する姿勢を身につけ、多文化共生社会に順応するための「発想力」「表現力」「対話力」「共感力」「問題解決力」を習得した人材を育成する。
- 3) 将来のキャリアを見据えて、自律的な語学学習を計画しそれを実行できる人材を育成する。

「都市大スタンダード2.0」では、必修科目として、1年次に開講される英語4科目（計4単位）を設置している。これらの必修科目は、入学時に行われる基礎学力テスト（TOEIC IPテスト）の結果により、CEFR基準に基づいた4レベルのクラス編成となる。各レベルにおいて、到達目標・学習内容・評価基準が統一され、全キャンパスの学生はこの統一カリキュラムにより英語運用能力の向上を目指すことになる。1年の学年末および2年の学年末には、入学時と同様の基礎学力テストが実施され、それまでの学習成果を確認すると共に、新たな目標設定を行うことができる。

選択科目は2年次から履修可能となり、2科目4単位の履修が卒業要件となっている。選択科目は、「英語科目（スキル）」、「英語科目（教養）」、「英語以外の外国語科目」、「共通科目」の4カテゴリーに分かれており、原則としてCEFR基準に基づいたレベル分けがなされている。「英語科目（スキル）」には、「Critical Reading」「Communication Strategies」「Test Taking Skills」「Academic English」など、「英語科目（教養）」には、「Literature in English」「Language Sciences」「Global Culture」などがあり、「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能が伸ばせるだけでなく、異文化理解を深めることができる。「英語以外の外国語科目」としては、中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、アラビア語が開講される。複数の外国語の学習はさらなる視野の拡大につながるため、これらの科目の受講を勧める。また、「共通科目」の1つである「海外・特別選抜セミナー」を通して、海外研修を行いながら単位取得を目指すことも可能である。

語学力は学習を積み重ねて向上するため、授業での演習に積極的に参加し、予習、復習に力を入れる必要がある。そして授業で培った語学力はあらゆる場面で「使用する」ことも重要である。外国語を使うことを学生生活の一部にしてみよう。無料で利用できる学内の外国語学習の手段や、最新情報も得られるネット・メディアを有効に活用しよう。映画やドラマ、テレビ・ラジオの外国語講座、海外旅行、短期研修、留学などは外国語学習のモチベーションを上げることにつながる。言葉は多様な人間、文化を知るきっかけとなる。自分に合った学習環境を創り、外国語を学ぼう。

### 履修上の注意事項

- (1) 英語は以下の4科目が必修である。

1年前期	Reading and Writing (1)	Communication Skills (1)
1年後期	Reading and Writing (2)	Communication Skills (2)

- (2) 英語の必修科目を修得できなかった学生は、原則として翌年に開講される該当科目の再履修クラスを履修すること。
- (3) 上記4科目以外の英語科目は選択科目で、授業は1時限半単位で行われる。履修は2年次以降に可能となる。なお、横浜および等々力キャンパスで開講される選択科目も履修できる。他キャンパスの授業時間表を参照し、特別履修申告書により履修登録を行うこと。「・・・(1)」「・・・(2)」の履修は、順序どおり行うことが望ましい。

---

# 工学部 工学基礎科目

---

数 学 系

自然科学系

情 報 系

工学教養系



○印必修科目 △印選択必修科目

必 選 の 別								備 考	科目 ナンバリング
機械工学科	機械システム 工学科	電気電子 通信工学科	医用工学科	エネルギー 化学科	原子力安全 工学科	建築学科	都市工学科		
									10-011
○	○	○	○	○	○	○	○		10-111
○	○	○	○	○	○	○	○		10-211
○	○	○	○	○	○	○	○		10-112
○	○	○	○	○	○	○	○		10-212
△	△	△1		△	△1	△	△		10-311
△	△	△1		△	△1	△	△	*建築学科・都市工学科対象	10-312
△	△	△1		△	△1	△	△		10-313
△		△1		△	△1	△	△		10-314
△	△	△1		△	△1	△	△		10-315
									10-316
									10-317
									10-318
									10-021
○	○	○	△1	○	○	○	○		10-121
○	○	○	△1	○	○	○	○		10-122
									10-221
			△1						10-222
									10-321
									10-322
○	○	△2	△2	○	△2	○	○		10-123
		○	△1	○	○				10-124
			△1	○					10-223
				○					10-323
									10-324
		△2	△2	○	△2				10-125
			△1						10-126
			△1						10-224
									10-127
									10-128
									10-225
									10-129
○	○	○	○	○	○	○	○		10-131
		△3							10-231
	△	○	○						10-233
									10-331
									10-235
○	○	○	○	○	○		○	*都市工学科対象	10-133
○	○	△3						*1 機械システム工学科・都市工学科対象/*2 機械工学科対象/*3 電気電子通信工学科対象	10-135
○	○	○	○	○	○	○	○	*1 原子力安全工学科対象・エネルギー化学科対象/*2 電気電子通信工学科対象	10-232
									10-136
									10-137
									10-138
									10-931
									10-932
									10-933
									10-934
									10-935
									10-331
									10-332

工学部

基礎

工学基礎科目

19 単位	21 単位	21 単位	15 単位	27 単位	19 単位	17 単位	19 単位
△ から 6 単位	△ から 8 単位	△ 1 から 2 単位	△ 2 から 2 単位	△ 3 から 2 単位	△ 1 から 6 単位	△ 2 から 2 単位	△ 1 から 2 単位

科目ナンバリング: YY-LMD

YY: 科目区分 10: 工学基礎科目  
 L: レベル 0: リメディアル 2: 基礎 9: その他  
 1: 入門 3: 応用  
 M: 科目群 1: 数学系 2: 自然科学系 3: 情報系・工学教養系  
 D: 識別番号

## 工学基礎科目

工学基礎科目は教育課程表にあるように「数学系」、「自然科学系」、「情報系」、「工学教養系」の科目群からなり、必修科目(○)、選択必修科目(△)および選択科目(無印)から構成されている。必修科目は卒業要件を満たすために必ず修得する必要のある科目である。選択必修科目には単位修得条件が設定されているので、その条件を満たすように履修することが必要である。必修科目、選択必修科目を条件通り履修し、さらに、選択科目の履修を合わせて、工学基礎科目として30単位修得することが卒業要件になっている。必修科目および選択必修科目は学科によって異なるので各学科の表を参照し、自らの学科を確認し、正しく履修を行うことが必要不可欠である。

### 数学系

「数学」は工学全般の基礎であり、「微分積分学(1),(2)」、「線形代数学(1),(2)」は必修科目である。「微分積分学(1)」は「数学基礎」とペアとなっていて、4月のオリエンテーション期間中に行なわれる基礎学力調査の結果が一定の基準に達していれば「数学基礎」の受講が免除される。2年次には、さらに様々な知識を習得するため、選択必修科目や選択科目が用意されている。

### 自然科学系

「物理学(1),(2)」は工学の基盤科目であり、医用工学科を除く全学科は必修科目、医用工学科は選択必修科目である。「物理学(1),(2)」は、「物理学基礎」がペアとなっていて、「物理学基礎」も基礎学力調査の結果が一定の基準に達していれば受講が免除される。物理学の学問領域は非常に広く、自らの興味、必要性に応じて履修できる選択科目が用意されており、参加型体験学習として「物理学実験」が開講されている。

「化学(1)」は電気電子通信工学科、エネルギー化学科、原子力安全工学科で必修科目である。応用化学的な科目も用意されている。さらに、生物学・生命科学および地学・地球科学に関する科目も開講されている。また、参加型体験学習として「化学実験」、「生物学実験」、「地学実験」が開講されている。エネルギー化学科では「化学実験」が必修科目である。

### 情報系

基本的な情報技術はすべての工学分野の基礎力に位置づけられている。そのような背景から「情報リテラシー演習」は必修科目になっている。また「プログラミング基礎」は医用工学科、電気電子通信工学科で必修科目に、機械システム工学科で選択必修科目になっている。その他、コンピュータの動作原理や数値解析法、ソフトウェア工学などを学ぶ科目も開講されている。これらの科目は、ITパスポートなどの情報処理技術者の資格取得に役立つ科目であり、将来を見据えたキャリア形成に役立ててほしい。

### 工学教養系

「工学教養系」科目は工学技術者として備えておく必要のある教養を養う科目群である。現代では工学技術者は世に多くの製品を送り出し、社会を創っていると言っても過言ではない。よって、社会を創る工学技術者には高度な倫理感が備わっている必要がある。また、技術者は自らが開発した製品の取り扱いについてユーザーに正しく伝えることが必要であり、論理性を満たした日本語表現能力も必要である。この「工学教養系」科目では、その他、フィールドワークを伴う科目が用意されていて、工学技術者の自発的な研究探求力を身に付かせることを目指している。

なお、「インターンシップ(1)」、「インターンシップ(2)」に関しては、実際の企業へ1～2週間程度研修に行くことで単位を修得する科目で、その科目の性格上、高学年での履修が望まれる。また、この科目の担当となっているのは、各学科の教務委員なので、「インターンシップ(1)」、「インターンシップ(2)」を希望する場合は、まず、所属学科の教務委員等に相談することが必要である。「海外体験実習(1)」、「海外体験実習(2)」は、例年、担当教員によるガイダンスを行った上で、参加者を募集している。

## 履修上の注意事項

## 1. 数学基礎, 物理学基礎について

工学基礎科目にある「数学基礎」、「物理学基礎」の内容は、大学の数学、物理学への導入及び基礎固めである。また、それぞれのリメディアルクラスの内容は、これらの科目と大学の科目を合わせたものになっている。これらの科目はオリエンテーション期間中に行われる基礎学力調査の結果により受講が許可される。

## ■ 「数学基礎」、「微分積分学(1)リメディアルクラス」の受講について

「数学」の基礎学力調査結果により以下の3つの判定が通知される。

## A判定

「数学基礎」の受講は免除される。「微分積分学(1)」のみ1年次前期から受講すれば良い。

「数学基礎」(およびそれを含む「微分積分学(1)リメディアルクラス」)は受講できない。

## B判定

「数学基礎」を受講することが好ましいが、受講は希望する場合のみで良い。

「微分積分学(1)」は「数学基礎」と同時受講可能で、1年次前期は「数学基礎」のみ受講し、1年次後期に「微分積分学(1)」を受講することも可能である。

「数学基礎」の受講を希望しない場合は、1年次前期に「微分積分学(1)」のみの受講となる。

## C判定

「微分積分学(1)リメディアルクラス」を受講しなくてはならない。

これは1年次前期の「数学基礎」と1年次後期の「微分積分学(1)」を合わせた通年科目である。

通常の「微分積分学(1)」および単独の「数学基礎」は受講できない。

## ■ 「物理学基礎」、「物理学(1)リメディアルクラス」の受講について

「物理学」の基礎学力調査結果により以下の2つの判定が通知される。

## A判定

「物理学基礎」の受講は免除される。「物理学(1),(2)」のみ1年次前期から受講すれば良い。

「物理学基礎」(およびそれを含む「物理学(1)リメディアルクラス」)は受講できない。

## C判定

「物理学(1)リメディアルクラス」を受講しなくてはならない。

これは1年次前期の「物理学基礎」と1年次後期の「物理学(1),(2)」を合わせた通年科目である。

1年次に通常の「物理学(1),(2)」および単独の「物理学基礎」は受講できない。

